

「地域デザインの学校」プロジェクトについて



「地域デザインの学校」プロジェクト実行委員会

◆福岡市市民局コミュニティ推進部コミュニティ推進課

◇NPO 法人ドネルモ

(1) 共働のきっかけ・必要性

●NPOと市との「共働」の必要性

市民局の調査によれば、地域活動を大切だと考える市民は9割を越える。その一方、実際に地域活動に関わっている市民は3割に留まる。その3割は自治協議会を中心とする既存の地縁組織による活動だが、近年は高齢化や組織の硬直化が問題となっている。そこで、従来の地域活動者とは異なる層が、地域活動に関わるきっかけづくりが求められている。

福岡市は地縁組織の基盤強化等の事業に努めているが、自治協議会に関わりのない層へのアプローチが弱い。一方、NPO法人ドネルモは「やりたいこと」や「興味があること」をきっかけに人々を活動へと誘うノウハウを有するが、既存の地縁組織との連携をNPO単独で行うことは難しい。そこで、地域活動に関わりの薄い層から人材を掘り起こすとともに、地域活動者とのつながりを育むことで、地域活動の基盤を強化するためには、福岡市（既存の地縁組織とのネットワーク）とNPO（新しい層への掘り起しの技術）の共働が必要となる。

●NPOの提案理由

NPO法人ドネルモは、高齢社会に向けた地域コミュニティや趣味や興味を媒介としたコミュニティづくり、また在宅医療を巡る多職種連携のあり方の調査研究に関わってきた。そうした活動の中で、近隣住民がお互いに支え合う関係づくりの必要性を痛感すると同時に、自治協議会を中心とする地縁組織では対応が困難な多様なニーズに注目し、そこにアプローチするノウハウを培ってきた。この問題意識から、これまでに地域活動に関わりの薄い層を掘り起こし、地域内外の活動者とネットワークを形成する本事業を提案した次第である。

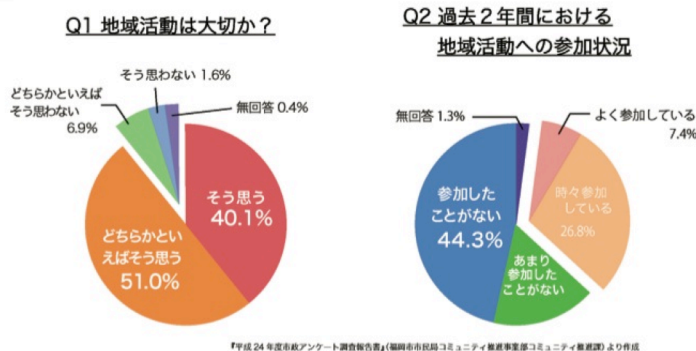
●市担当課が取組む理由

NPOとの共働事業を実施することで、NPOの柔軟性とノウハウを活かし、地域への関心を持っている新たな層への働きかけと、事業を通じて得られたノウハウや経験等を今後の市の施策に活かすことができる考えたため。

(2) 事業目的

これまでの地域活動に関わってこなかった人々（全体の6割強）が、様々な活動に関わることで、地域内外の活動の担い手とつながりながら、地域活動を豊かにしていくモデルケースを、NPOと行政との共働を通じて開発する。

【下図：福岡市の地域活動の現状：本事業説明資料より】



(3) 事業目標

■本事業のアウトプットと3年間のロードマップ

①「地域の担い手づくり」のプログラム開発と実施

初年度に1地域（1校区を中心とし、その近隣校区まで含む）でのモデルケースづくりを通じて、1地域を対象としたプログラムを開発する。次年度以降、開発したプログラムを他地域で実施し、フィードバックを得ながらプログラムの修正・洗練を重ねることで、これまでに地域活動に関わりの薄かった層から担い手を掘り起こすノウハウを、福岡市とNPOの共働を通じて培う。

またプログラムの実施を通じて、3年間で5地域20校区（1地域あたり、中心となる1校区とその周辺の3~4校区を含む）を対象に、1地域あたり20名強、3年間で100名強の担い手が、これまでに地域活動への関わりが薄かった層から生み出される。

②「担い手相互の交流企画」の開発と実施

- 受講者相互、および講座講師やゲストといった講座関係者相互の交流
- 既存の地域活動者らと受講者との相互交流

それぞれに係る企画を開発・実施し、地域内外の活動者がつながる場づくりを通じて、地域活動の担い手相互のネットワークの形成を目指す。

■本事業のアウトカム

福岡市全体の人口からすれば、100名という数は非常に少なく見えるかもしれない。だが本プログラムを通じて生まれるのは、主体的に地域活動に関わるマインドと具体的に活動を進めるノウハウを持ち、他の活動者（既存の地域活動、NPO、企業等）と地域内外で相互につながるネットワークを有する担い手である。そこには受講者の数では単純に判断できない意義があると考えられる。本事業がモデルケース開発と並行して、受講生相互や関係者との交流プログラムや、既存の地域活動者と受講生の交流プログラムの開発も行うのも、そうしたネットワーク形成に重きを置くためである。

(4) 事業内容

初年度（H26年度）の事業内容

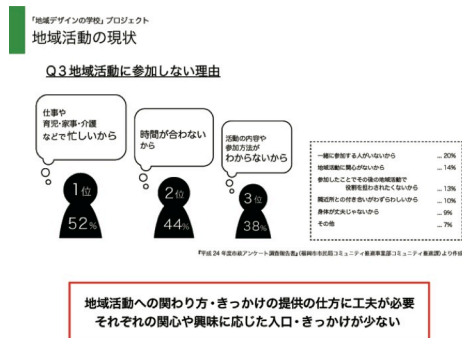
内容	平成26年												平成27年			
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3				
①プログラムの開発および実施																
【準備期間】 ・対象校区の選定：行政関係者、既存の地域活動層へのPR活動	準備期間															
【第1期「地域デザインの学校」の開発・実施】 ・7月：対象校区での調査、人材の掘り起こし ・8月：受講応募期間（9月中旬～） ・9月～11月：講座実施 ・2月～：アフターフォロー				第1期調査			受講者応募			講座実施			アフターフォロー			
【H27年度の準備】 ・事業活動のレポート作成（行政関係者、地域活動層へのPR活動）																レポート作成

①プログラムの開発と実施

【準備期間】

■対象校区の選定：2014.4～6

- 地域支援課課長への説明 候補となる校区の地域支援課への説明
- 候補となる校区の地域関係者（自治協議会・自治連合会）への説明



【※本プロジェクトの説明用資料より】

【第1期プログラムの開発・実施】

■対象校区（千早校区）でのヒアリング調査・人材の掘り起こし：2014.7～8


- 30名の千早在住者、地域関係者へのヒアリング調査
- 様々なネットワークを通じ、人づてに紹介を受けながら、調査を実施



【※ヒアリング調査の様子】

■千早校区および近隣校区での講座受講者応募：2014.8.5~9.15

- 千早校区を中心とする近隣地域を対象に広報
- 応募期間：8.5~9.15
- 受講者総数 25 名（応募総数 29 名）
- 6 校区からの参加（千早校区を中心に近隣 5 校区を含む）



地域デザインの学校 In 千早

「やりたいこと」をかたちにする。
みんなで一緒に、はじめませんか？

● 応募期間
2014年8月5日~9月15日

● 実施期間
2014年9月21日(日)~2015年1月中旬(全6回)

会 場：千早小学校の特別教室

参加費：無料！(要事前申込) ※申込み方法は裏面に記載しています。

受講者大募集！

こんな方をお待ちしています！

- いろいろな人とのつながりを増やしたい！
- 自分のやりたいこと、できることに磨きをかけたい！
- 自分の住んでいる校区のことをもっと知りたい！
- 千早校区、またはその周辺に住んでいる！

自分のやりたいことや興味から、まちを元気にする企画案をつくる講座です。ひとりではなく、仲間と一緒に活動することを学びます。ランチタイムやカフェタイムなど、参加者同士のつながりづくりも大切にします。

主催：「地域デザインの学校」プロジェクト実行委員会
この事業は、福岡市市民協働コミュニティ推進と NPO 法人「ドネルモト」が共同して実施しています。（福岡市社会福祉協議会認定社会福祉事業所）

福岡市 donner le mot
FUKUOKA CITY

地域デザインの学校
donner le mot

地域デザインの学校 とは？

地域デザインの学校は、自分の興味ややりたいことをかたちにして、いろいろな活動につなげていくプロジェクトです。

「自分のやりたいこと」を、1人でやるのではなく、いろいろな人たちと関わりながらちょっとずつはじめてみたい。そんな人々が集い、参加者同士で学びあったり、話し合いながらお互いにつながる場を通じて、やがて地域の支えあいのかたちが少しずつ変わってゆく。そんな活動が生まれることを、地域デザインの学校は目指しています。

今まではちょっと違う「これからのまちづくり」を、ここ千早校区から、みなさん一緒にはじめませんか？

講座スケジュール

- 9月21日(日) 入学式&オリエンテーション 14:00~16:00
- 10月中旬 第1回 やりたいことから始める！自分の関心からはじめる / 千早を知る
- 11月上旬 第2回 つながりをつくる！いろいろな人と関わりながら活動する
- 11月下旬 第3回 活動のつくり方を知る！企画をつくる上で大切なことを学ぶ
- 12月中旬 第4回 さらに深める！企画をつくる・練る・更にする
- 1月上旬 卒業式 思いをかたちに！企画案の発表 / 今後のプランについて

募集要項

- 定 員：20名程度 ※応募多数の場合、選考あり。
- 参加費：無料
- 応募方法(〆切:9月15日) 下記のいずれかの方法でご応募ください。
(1) WEB サイト (donnerlemot.com) のエントリーフォームからご応募ください。
[申込み](#) [検索](#)
(2) 本チラシ下段の申込書に記入の上 FAXまたは郵送にて事務局までお送りください。

お申込・お問い合わせ

「地域デザインの学校」プロジェクト 実行委員会事務局

- 電話 / FAX : 092-409-5762
- メール : donnerlemot@gmail.com

福岡市 donner le mot
〒812-0026 福岡市博多区上川端町9-35 冷泉荘 B55 NPO 法人ドネルモト内

お申し込みフォーム ※9月15日までにお申込ください

FAX / 郵送 お申し込み記入欄

お名前:	年齢:	職業:
メールアドレス:	電話番号:	
ご住所:		
応募動機(「既読希望」など特記事項のある方は、あわせてご記入ください)		

【※受講者応募のチラシデザイン】

■講座の実施：2014.9~2015.1

- 入学式 オリエンテーション / 「住むまち」から「暮らすまち」へ
- 9.21(日) 10:00~15:00 @千早小学校 音楽室



【※9.21 入学式の様子】

【今後の実施予定】

□第1回 気づきを持ち寄る ～千早に気づく／気づきを持ち寄る～

10.26(日) 10:00～15:00 @千早小学校 図書室

(※予定日 10.13 が台風のために振替日にて実施予定)

□第2回 気づきを持ち寄る ～千早に気づく／気づきを持ち寄る～

11.3(月・祝) 10:00～15:00 @千早小学校 図書室 □第3回 活動のつくり方を知る！ ～企

画をつくる上で大切なことを学ぶ～

11.30(日)10:00～15:00 @千早公民館／講師：猿渡進平氏

□第4回 さらに深める！ ～企画をさらに具体的にする～

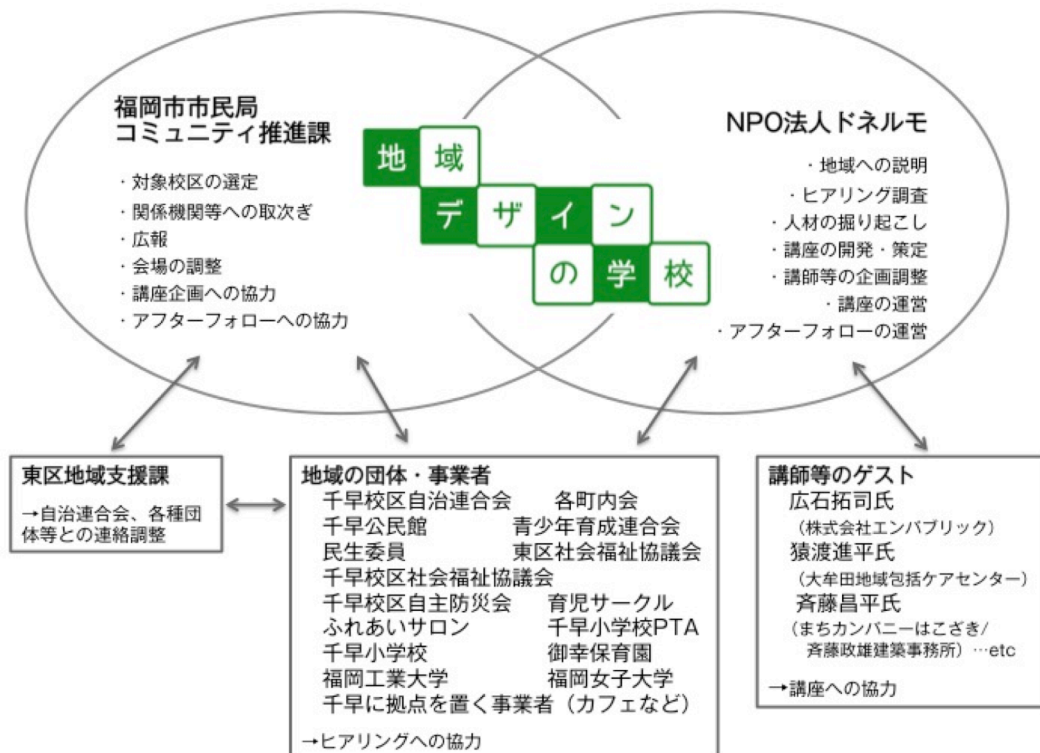
12.20 (土)10:00～15:00 @九州産業大学コミュニティギャラリー

□卒業式 思いをかたちにする！ ～企画案の発表/今後のプランについて～

1.11(日)10:00～15:00 @千早小学校

■講座修了者へのアフターフォローの実施：2015.1～2015.3

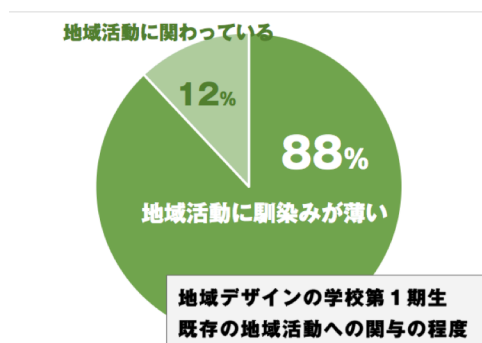
(5) NPOと市の役割分担



(6) 共働事業のメリット・成果

□地域活動に関わりのなかった層からの参加

講座には、30～40代を中心に、20代から70代の幅広い年齢層が参加する。応募動機を見ると、従来の地域活動に関わっていた人は数名で、大半は関わりがなかった人々である。こうした層は、市の従来の施策がアプローチし難かったところであり、NPOの講座企画や広報戦略が一定の成果を挙げたと考えられる。他方NPO側としても自団体のネットワークだけでの広報には限界がある。その点、公民館だよりとセットでチラシを全戸配布するなど、市との共働という枠組みではじめて可能となる広報展開が、今回の受講者層を巻き込むことに成功した大きな要因と考えられる。



【本講座には地域活動に関わりの薄い層からの応募が多い】

□多様な層へのヒアリング調査

地域で活動する人々を調査するヒアリングにおいては、行政とNPOそれぞれのネットワークを通じて、多様なヒアリング対象（30名）を得られた。ヒアリングの成果はテキストにまとめられ、講座（第1回）で受講生と共有される。またこのヒアリングを通じて掘り起こされた人材へ、講座の中でグループインタビューが実施されるなど、従来関わりがなかった地域の人材が相互につながっていく点も、共働の成果と考える。

□小学校やコミュニティギャラリーでの講座の実施

既存の地域活動の外側にいる人々を対象とする本事業において、イメージはとりわけ重要な要素である。その点で千早小学校や九州産業大学のコミュニティギャラリーのような、公民館とは異なる地域の場所で講座を実施できるのには、大きな意義がある。こうした会場での実施は、NPO単独ではなかなか話が進まない。その点、福岡市との共働事業である本事業では、非常にスムーズに交渉が進んだ。これもまた共働の成果のひとつに数えられる。

●実施事業の効果

□受講者へのアンケート調査（実施中）

地域、協同作業、ソーシャルキャピタル（社会的資本）に対する意識調査のアンケートを、受講生を対象に実施。受講前（入学式時）と受講後（卒業式終了時）で同じアンケートを実施し、本事業を通じて受講者の意識にいかなる変化が生じるのかを調査する。

(7) 共働するうえで苦勞した点・工夫した点

◎工夫した点

□現場をできる限り共有する

行政担当者と NPO 担当者が、できる限り現場を一緒に行動し、ともに考えることに努めた。行政と NPO とでは、地域に対する考え方や行動原理が異なる。その点を踏まえた上で、個別のケースにおいて、どのようにアプローチすべきかに関して、丁寧な打合せを重ねた。

◎苦勞した点

□対象校区の選定の難しさ

福岡市が強いネットワークを有する既存の地域活動の担い手（自治協議会など）に対して NPO と共働で実施する本事業の趣旨や意義を伝える点で苦勞した。NPO のノウハウを活かして、既存の地域活動に馴染みの薄い層にアプローチするという本事業の趣旨に対して、多くの既存の地縁組織は、その趣旨に賛同しつつも、同時に次のような懸念の声が聞かれた。

- ①自治会等、自分たちの仕事が増え、負担が更に増えるのではないか？
- ②どんな人が参加するのか不安。自治会組織とは異なる、新しい団体をつくるのではないか？
- ③成果が見えにくい。自治会の役員がすぐに見つかるのではないのか？

本事業は既存の地縁組織に説明するにあたり、まずもって①に配慮し、本事業が自治協等の負担にならない点を強調した。もっとも①の点が納得されると、次いで②が問題となる。そこで本事業については、既存の地縁組織とも相談しながら進める方向性となるが、この段階で、「やはり相談に応じるとなると負担が増える」とされ、結局は受入れが拒否されるに至ることがあった。

こうした難点の要因には、まず本事業が初年度であり、事業の具体的な内容と成果、そして既存の地縁組織にどれほどの負担があるのかが見えづらいことがある。この点につき、次年度以降では、初年度の実績をまとめた資料を説明の際に示すことで、よりスムーズに進められると思われる。

また②の点につき、地域活動に馴染みの薄い受講生と既存の地域活動者とは交流する場を、講座内外で設けるなどして、お互いが顔見知りになる機会を積極的に設ける企画も必要となる。この点については、(9) 27 年度への展開において別途展望を述べる。

③に関しては、現状では(3) 事業目標に述べた成果目標（アウトプットとアウトカム）を説明した。担い手相互のネットワーク形成は、地域活動における関わり方の多様化に関わるが、この点もまた、実績の積み重ねを通じてのみ、説得力をまましていくものと思われる。

(8) 担当者の声・市民の声

【福岡市市民局コミュニティ推進課】

NPOと共に地域へのヒアリングを行った際に、実際に地域で活動している人たちの思いや苦労などを直接聞くことができ、今後の施策への参考となった。また、実際に参加者が集まったことで、地域活動や地域へのつながりへの関心が高いことや、地域にはたくさんの人材や資源があり、その掘り起しが大事だということを改めて認識した。

【NPO 法人ドネルモ】

本事業は、元々は NPO の問題意識から提案されたものであったが、共働事業を進めるにあたり、担当課の課長・係長・担当者との対話を通じて、事業のビジョンはより具体的かつ有意義なものへと練り上げられてきた。また対象地域への関わりにおいて、行政担当者と一緒に行動できたことは、NPO の考え方やアプローチを地域に伝える際の信頼性の確保の面で、大きな効果があった。

【千早校区自治連合会会長】

「人と人のつながり」をつくっていかうとするのは、私たちも必要と思っている点なので、一緒にやろうということになった。受講される方には、初めてお会いする方も多く、1つ1つの結びつきからつながりができていけば、と思う。こうした若い世代の担い手づくりの一環として期待している。

【受講者の方から】(講座への応募動機より)

「自分の住んでる町をもっと知りたい&結婚や育児をして、地域と繋がりたいと思うようになった。いろんな方の話を聞きたい。ディスカッションしたい。」(30代・女性)

「千早に引っ越して3年。地域の円を広げたくて応募しました。」(40代・男性)

「引っ越してきて1年以上になるが、千早及び周辺のことはあまり知らなくて地域との関わりもないため」(40代女性)

「4月に地元である千早に戻ってきました。どんどん新しくなっていく千早を面白い町にしたいと思い応募しました。」(40代・男性)

「地域デザインの学校という言葉に目が止まったのが理由です。将来的には、地域に密着したことを何かやりたいと考えていた私にとって結局なにをどうしたらいいのか全く分かっていません。ここで、学べたらすごく嬉しいです。」(20代・女性)

「地域交流などをまったくしてこなかったのが、将来的に不安を覚えています。何ができるかわかりませんがこれを機会に地域の方々との知り合いを増やせたらと思い応募いたしました。」(50代・男性)

(9) 27年度への展開

● 27年度の事業継続の必要性について

■受講者のネットワーク形成

本事業の目標のひとつに、受講者相互のネットワーク形成がある。初年度を受講生を第1期生とし、次年度には第2期生、第3期生が生まれる。そこでは第1期生が第3期生の相談に応じるなど、相互交流の機会も定期的に設ける予定である。こうした本事業の目的からして、継続の必要性がある。

■他地域での実施する必要性

東区千早校区（及び近隣校区）では、千早駅前再開発を受けマンションが新規に建設され、近年急速に人口が増加している。子育て世代を中心に30代～40代のボリュームが多く、高齢化率も11.9%と、福岡市の中でもとりわけ若い世代が多い。本事業への初年度の応募者には30～40代が多く、これは自治会等既存の地域活動に関わりの薄い年代にあたる。その層が多く参加しているのは初年度の成果のひとつだが、上記の千早固有の事情によるところも大きいと考えられる。

そこでH27年度は、千早校区（とその近隣）とは人口構成など地域性の異なる2地域（高齢化率の比較的高い地域等）を対象として、初年度開発のプログラムを実施し、そのフィードバックから修正と洗練を計りたい。

■初年度から見えてきた課題・フィードバック

「対象校区」の拡大について

初年度はヒアリング調査やチラシ全戸配布も千早校区で実施したにもかかわらず、近隣校区からも参加が見られ、実質6校区から集っている。このため次年度からは、核となる校区を中心に、近隣校区も「対象地域」とし、そこに該当する校区への調査と周知を実施したい。

既存の地域活動の担い手と受講者の交流の必要性

初年度の実施を通じて、既存の地域活動の担い手（自治会や各種団体等）と、本講座を通じて新たに地域に関わろうとする人々とが気軽に交流できる機会を、とりわけ既存の担い手側が求めていることがわかった。そこで次年度では、その交流プログラムの開発も実施したい。

■次年度以降の共働の必要性と有効性

本事業は、既存の地域活動主体（自治協議会等）と強いネットワークを有する福岡市コミュニティ推進課と、既存の地域活動に関わりの薄い層を巻き込んでいくノウハウを有するNPO法人ドネルモの共働を通じて、はじめて実現可能な事業として企画立案されている。

初年度開発されたプログラムも、対象校区の選定やNPOへの地域への入り方、地域への調査や受講生の応募方法、講座の会場の設定や講座運営の多岐にわたり、市とNPOの共働作業を通じて実現されている。H27年度の事業もまた、この共働のプログラムを更に他地域で展開実施するものである。

● 27年度の事業計画について

内容	平成27年												平成28年		
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3			
①プログラムの他地域での展開															
【準備期間】 ・対象校区の選定：行政関係者、既存の地域活動層へのPR活動															
【第2期「地域デザインの学校」の実施】 ・6月調査開始 ・7月受講応募期間(8月上旬〆切) ・8月～11月：講座実施 ・11月～：アフターフォロー															
【第3期「地域デザインの学校」の実施】 ・9月調査開始 ・10月受講応募期間(11月上旬〆切) ・11月～翌2月：講座実施 ・翌2月～：アフターフォロー															
【H28年度の準備】 ・事業活動のレポート作成(行政関係者、地域活動層へのPR活動)															
②第1期(千早：初年度対象地域)受講者へのアフターフォロー															
→活動内容に応じた個別相談・他の機関や団体への紹介・支援															
③受講者(「地域の担い手」)相互の交流プログラムの開発・実施															
→11月、翌年3月の年2回実施 →活動の進捗報告＆悩み相談など、受講者相互による「ななめの関係」の醸成															
④地域の住民との交流プログラムの開発・実施															
→各地域でそれぞれに実施。2地域(3校区×2) →講座への参加者、自発協等既存の地域活動者、講座不参加の地域住民との交流プログラム															

①プログラムの他地域での展開

◎初年度開発したプログラムを、6ヶ月で1地域(中心校区と近隣校区からなる)

で実施できるよう再編し、計2地域で実施

【準備期間】4～5月

- ・対象校区の選定：行政関係者、既存の地域活動層へのPR活動

【第2期の開講】6月～11月

- ・ヒアリング調査&受講生募集：6月調査開始、7月受講応募期間(8月上旬〆切)
- ・第2期講座の実施：8月～11月：講座実施
- ・受講修了生へのフォロー：11月～：アフターフォロー

【第3期の開講】9月～翌年2月

- ・ヒアリング調査&受講生募集：9月調査開始、10月受講応募期間(11月上旬〆切)
- ・第3期講座の実施：11月～翌2月：講座実施
- ・受講修了生へのフォロー：翌2月～：アフターフォロー

【H28年度の準備】翌年3月

- ・事業活動のレポート作成(行政関係者、地域活動層へのPR活動)

②第1期（千早：初年度対象地域）受講者へのアフターフォロー

→活動内容に応じた個別相談・他の機関や団体への紹介斡旋

③受講者（「地域の担い手」）相互の交流プログラムの開発・実施

→11月、翌年3月の年2回実施

→活動の進捗報告&悩み相談など、受講者相互による「ななめの関係」の醸成

④地域の住民との交流プログラムの開発・実施

→各地域でそれぞれに実施：2地域（3校区×2）

→講座への参加者、自治協等既存の地域活動者、講座不参加の地域住民との交流プログラム